

令和2年度 第9回 政策決定会議 会議録①

◆開催日時:令和2年 10 月 20 日(火) 10:00~10:30

◆開催場所:市長公室

◆出席委員:永野市長、堤副市長、大下教育長

◆審議事項

・岸和田市立公民館及び青少年会館再編基本方針について……………生涯学習課⇒承認

◆審議概要

『岸和田市立公民館及び青少年会館再編基本方針について』

〈説 明 者〉牟田生涯学習部長、寺本生涯学習課長、土井公民館担当長

◎説明者から、案件及び政策調整会議における議論の内容を説明し、政策調整会議にて本件一部修正のうえ承認された旨、報告。

※案件内容は付議依頼書に基づき説明。政策調整会議における議論内容は、以下のとおり。

【政策調整会議における議論内容】

- ① 本方針は、公民館の老朽化への対応及び規模と利用率の適正化という2つの観点から再編整備を進めるものであり、岸和田市公共施設最適化計画とは整合を取りながら進めていくこととし、「岸和田市立社会体育施設再編基本方針」と文言等を統一すること。
- ② 公民館が昭和 40 年代～50 年代に多く建設された理由は、建設に対し、文部省の補助金が活用できたためであり、地区市民協議会の活動拠点として整備された経緯がある。また、文化とともにスポーツも推進するため、公民館に体育館機能を持たせたため、規模の大きな公民館が複数あること。
- ③ 公民館が多数あることのメリット(本市には中重度の要介護者が少ないこととの関連性等)を分析するため、関係課と連携すること。

◎報告後、質疑応答

〈堤 副 市 長〉政策調整会議における議論内容の3点目について、SDGs のゴール3においても健康が挙げられている。健康や福祉とつながるような説明ができればと考える。

〈市 長〉施設を統合する場合、同様の利用内容があった場合はどうなるのか。

〈生涯学習部長〉調整する。

〈市 長〉統合される施設利用者の意識が心配である。お金のためではなく、現在環境が整っていない施設もある中で、市民にとってより良い形となるようにするものであることを共通認識として持ち、市民にも説明していくように。

〈教 育 長〉公民館の再編については、小・中学校の適正配置の議論とともに進める必要があるため、個別計画の時期は明記していないことを共通理解としていただきたい。

〈堤 副 市 長〉体育館も同様ではないか。

〈教 育 長〉学校の体育館は、学校施設を開放するものであり、学校施設は第一に教育施設であることを前提に説明をする。公民館とは異なる。公民館の再編について時期は明確にしていながら、利用率の低下や老朽化に対応するため最適配置をするという考え方で進めていく。

〈生涯学習部長〉生涯学習審議会の中で、公民館の持っている防災機能を大事にしてほしいという意見が出たので、それも考慮しながら整理していく。

〈市 長〉現状、小学校を中心とした地域のあり方と公民館を中心とした地域のあり方には整合性があるのか。

〈生涯学習部長〉24 小学校区には及ばないがある程度は整合が取れていると考える。

〈市 長〉公民館や小・中学校の再編によって地域のあり方がどのように変わっていくのか整理が必要。祭はそれらが変わっても変わらないか。

〈生涯学習部長〉神社の氏子なので変わらない。

〈教 育 長〉地域の単位(1次生活圈、2次生活圈、3次生活圈)の捉え方は市民によって様々であり、整合は取りにくいですが、まずは、小・中学校の再編を踏まえて、地域として機能が欠けるところに対しどうフォローするかという観点で考えていきたい。防災機能としての避難所や地域の集会の場がなくなるなどといった意見に対しては、今後小・中学校の再編の中で議論していく。スポーツ施設については、地域の拠点整備というよりは、市の中で中心的に使われている中央体育館や心技館のあり方をどうするかといったことを中心に考えていく。

〈堤 副 市 長〉岸和田市は要介護度2以下の軽度の方が8割を占めており、大阪府内では模範的な市であると府の担当者から言われている。その理由について、2025 年の万博、また SDGs の目標達成に向け、対外的に PR できるよう分析しておくように。

〈市 長〉岸和田市は介護事業の提供主体が多く、通常であれば要介護度が高くなる傾向にある。その中で中重度の要介護度者の割合が低いということであれば、予防ができているということになる。分析し、公民館や生涯学習のあり方として PR できることがあれば、それも含めて「健康先進都市」というくくりで、それに向けたいくつかの施策の一つとして位置づけてもいいかもしれない。

〈堤 副 市 長〉岸和田市は居宅サービス割合も高い。これも地域コミュニティに関わっている可能性がある。

〈教 育 長〉市民活動の場として、公民館の役割は大きい。

〈市 長〉祭があり、コミュニティがしっかり形成されており、減ったとはいえこれまで多くの方が公民館を利用している。それが健康の増進につながっているのではないかという仮説を立て、データで裏付けていくこと。

〈堤 副 市 長〉過去に多くの公民館施設を整備し、地域づくりに力を入れてきたという経緯を踏まえて行っていくように。

〈総合政策部長〉本案件について、原案どおり承認してほしいか。

【異議なし】

⇒本件を、原案のとおり承認する。

令和 2 年 9 月 25 日

政策調整会議付議依頼書

依頼者名 生涯学習部長

下記事項について、効果的かつ効率的な市政運営実施のための会議の設置に関する規程第 14 条の規定に基づき、下記のとおり付議を依頼します。

記

付議事項名	岸和田市立公民館及び青少年会館再編基本方針について
付議の目的 (ポイントを絞り込んで、簡潔に記載すること。)	公民館及び青少年会館を求められる役割や社会情勢を見据え再編し、市民一人ひとりにおける学習活動の促進、住民主体のまちづくりを「学び」を通して促進していくため、基本方針の策定を行う。
説明者	生涯学習課 寺本課長
	土井公民館担当長
付議事項の概要	様式別紙に記載(必ず別紙様式をご提出ください。)

付議会議	令和2年度 第9回会議
付議事項	岸和田市立公民館及び青少年会館再編基本方針について

★取組の目的

対象	市民
どのような状態を目指す	公民館及び青少年会館を求められる役割や社会情勢を見据え再編し、市民一人ひとりにおける学習活動の促進、住民主体のまちづくりを「学び」を通して促進すること。

★総合計画上の位置付け

101010101	基本目標	I－1 生きがいを創造する
ここにコードを入力 (コードは「総計体系」を参照)	達成された姿	(1)生涯にわたって能力を伸ばすことができる
	目指す成果	①生涯学習に取り組む市民が増えている
	行政の役割	ア 様々な学習を手軽に行える機会や場を提供する

★現状と課題

本市の公民館等は、昭和40年代から50年代にかけて多く建設され、当初は中学校区に1館の体制が進められてきました。第1次総合計画では公民館機能を有した地域コミュニティづくりの基盤施設として、市民センターの整備が構想されました。その後、第2次総合計画では、生涯学習の更なる推進や地域での学習・コミュニティ活動の拠点整備を目的に、小学校区の全てに公民館等を設置すると具体的に示され、整備が進められました。しかし財政状況の悪化により「財政健全化3ヵ年アクションプラン」が打ち出され、整備が実現しないまま現在の19館となっています。

公民館は、住民が主体的に地域課題を解決するために必要な学習を推進する役割や、学習の成果を課題解決のために実際の活動につなげるための役割、地域コミュニティの維持と持続的な発展を推進する機能が求められています。また、住民主体のまちづくり、行政をはじめとした地域の幅広い情報の発信拠点としても位置付けられるべきであり、地域社会における公民館が求められる役割が高度なものになっています。

本市の公民館等の建築後の経過年数を見ると、市民センター等との複合施設として建設された6館(分館・山直・旭・常盤・八木・大宮)以外の単独施設について、5割以上が築40年以上経過しており施設の老朽化が進行しています。また、これらの施設が平成28年3月に策定された最適化計画に定める目標耐用年数 65 年に到達するため、今後施設の計画的な改修や建て替えを検討する必要があります。

(単位:千円)

実施中の取組及び予定する事項		決算(見込額)		予算額	見込額				
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
政策調整会議 【令和2年10月13日】									
政策決定会議 【令和2年10月20日】									
パブリックコメント 【令和2年11月上旬～11月下旬】									
財源内訳	国費								
	府費								
	起債								
	一般財源								
	その他								
事業費		計			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		0			0	0	0	0	0

★当該事項に関連する人員増の必要性※

人員増の必要性				R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
有		無		0	0	0	0	0

★取組の効果を表す指標

						目標値				
	指標名	単位	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
①										
②										

※事業費及び人員を確約するものではない。